

(平成27年2月静岡県議会定例会)

天野 進吾 議員(自民改革会議)の一般質問 に対する答弁

(質問日:2015/02/25 4番目)

教育行政についてお答えいたします。

教育長としての感慨についてであります。平成22年4月に就任して以来5年、教育委員会事務局を預かってまいりました。この間、本県教育の充実・発展、人づくりに対する知事の並々ならぬ熱い思いを、多くの機会を通して感じ、薫陶を受けてまいりました。私たち教育委員会事務局の者ではとても思い付かないような施策提案にも、度々出会い、その豊かな発想力・着想力に大いに学ばせていただきました。

そして、その熱い思いや施策提案等を受けながら、教育委員会としてどのように具現化できるかを、他の教育委員と共に協議をしてまいりました。

しかしながら、思いや願いは同じであっても、議員から御指摘がありましたように、時として、方法や手法において見解を異にすることもあり、そのような場面において、教育長として、教育委員会と知事への説明・調整など懸け橋役を必ずしも十分果たせなかったことに、今、力不足を感じているところであります。

来年度から始まる、総合教育会議が、知事と教育委員会とのそれぞれの思いを、それぞれに課せられた責務を尊重しつつ、新教育長のリーダーシップの下、方法・手段まで含めて共通理解する場となることを期待しております。

本議会初日の藪田議員の代表質問への答弁でも申し上げましたように、「自立と連携」により、建設的な議論・対話が展開されるよう願っております。あわせて、教育委員会には、継承すべきものは継承しながら、勇気を持って、改善・改革をしていっていただければと思っています。

この5年間、多くの学校を訪れ、子どもたちの生き生きとした姿に励まされ、また、地域の方々の協力を得ながら、先生方が懸命に教育活動に当たっている姿に接することができました。毎日の地道な学校生活の積み重ねが、子どもたちのたくま

しい成長につながっていることを改めて実感し、学校教育の環境整備・人的配置の充実の必要性を痛感いたしました。一方で、尊い命が失われるという二度と起こしてはならない事故に直面し、また、大震災の被災地に立ち、「命を守る教育」は最重要課題であることを強く感じた次第であります。

いじめや体罰の問題は、全国的にも大きく取り上げられ、社会問題となりました。これらの事案に接するたびに、心が冷たくなり、教師が児童生徒に教えることの難しさや、子どもたちが互いに育っていくことの複雑さを感じました。根絶に向けては「人権教育」が大変重要であります。その要諦は、「想像力」ではないかと思っています。自ら発する言葉・行動がどのように相手に受け止められるかという想像力を持つことが必要だと思っております。この想像力は、「命を守る教育」にもあい通じるものだと思っております。

私は、この5年の間に、議員の皆様や各界のリーダーを始め様々な分野で活躍されている多くの方々にお会いすることが出来ました。私の財産ともなっております。そのような方々のお話をお伺いし、お人柄に触れて感じたことは、「経験を重ねること、学ぶということは、人を温かく柔らかくする」ということでありました。学ぶことは強くなるということだけではなく、人として柔らかくなることだと教えられました。確固たる信念を持ちながらも、一方で、柔軟性・包容力を持ちながら、和を大切に、県民のためにより良い施策を行っていかねばならないことを強く感じた次第であります。

優秀な事務局職員に支えられ、励まされての5年間でありました。山あり谷ありではありましたが、職員一人ひとりが気概と使命感を持ち、一丸となって、その時々課題に誠実に、かつ真摯に取り組んでくれたことを有難く思い、今、感謝をしております。この文化は、ぜひこれからも大切にしていってほしいと思っております。

今後の本県教育行政が、チーム静岡の下、力強く進められることを切に願っております。

以上であります。